

SPring-8 企画グループの現状

日本原子力研究所・理化学研究所
大型放射光施設計画推進共同チーム
企画グループ 齋藤 茂和

はじめに

SPring-8 計画にとっての平成 7 年は、特に予算面で大きな進捗のあった年となった。平成 7 年度には 2 度の補正予算を獲得することができ、これによって SPring-8 の完成が 1 年早まり、平成 9 年 10 月から共同利用ビームラインの利用が開始されることになった。また、平成 10 年度以降に計画していた将来施設計画のいくつかが前倒しされ、いずれも平成 9 年度に完成することになった。

平成 7 年の主な出来事は前頁の表のとおりである。それらの概要を以下の項目に分けて記す。

- ・計画の進捗状況
- ・補正予算による将来計画施設の建設
- ・SPring-8 計画推進体制の整備

1. 計画の進捗状況

1.1 予算面

SPring-8 計画（第 期）の総予算は、1,089 億円である。これは、計画当初に昭和 62 年～平成 10 年の 12 カ年に要する建設費として見積もられたものであるが、平成 7 年度の 2 度の補正予算により、第 期計画は平成 9 年度に完了することとなった。現在の SPring-8 の予算計画は次のとおりである。

	現金 [△] -入 (%)	契約 [△] -入 (%)
平成 7 年度 (当初)	64.3	85.3
(第 1 次補正後)	76.9	99.3
(第 2 次補正後)	79.9	99.4
平成 8 年度 (政府案)	90.9	99.8
平成 9 年度 (予定)	100	100

1.2 進捗状況

SPring-8 諸施設建設の進捗状況（平成 7 年 12 月末現在）は、以下のとおりである。

	全体%	装置%	建屋%
線型加速器	89.4	85.3	100
シンクロトロン	78.0	72.8	100
蓄積リング	70.2	67.6	72.2
ビームライン	20.9	20.9	-
共通施設*	9.1	-	9.1
全 体	68.8	63.9	73.7

* 中央管理棟、食堂、及びマシン実験棟

今後の主な予定は、以下のとおりである。

- ・平成 8 年 8 月 線型加速器のコミッショニング
- 10 月 シンクロトロン のコミッショニング
- 12 月 蓄積リング棟完成
- ビームライン据付開始
- ・平成 9 年 2 月 蓄積リングのコミッショニング
- 5 月 ビームラインのコミッショニング
- 10 月 ビームラインの供用開始

2. 補正予算による将来計画施設の建設

平成 7 年度の補正予算によって、SPring-8 の第 期計画として予定していた、研究交流施設、組立調整実験棟及び医学利用実験施設の建設が、新たに認められた。これらの施設はいずれも平成 9 年度に完成する。

一方、兵庫県立姫路工業大学は、SPring-8 の線型加速器を利用する 1.5GeV の真空紫外・軟 X 線蓄積リング(ニュースバル計画)の建設計画に平成 8 年から着手する予定であり、共同チーム加速器系グ

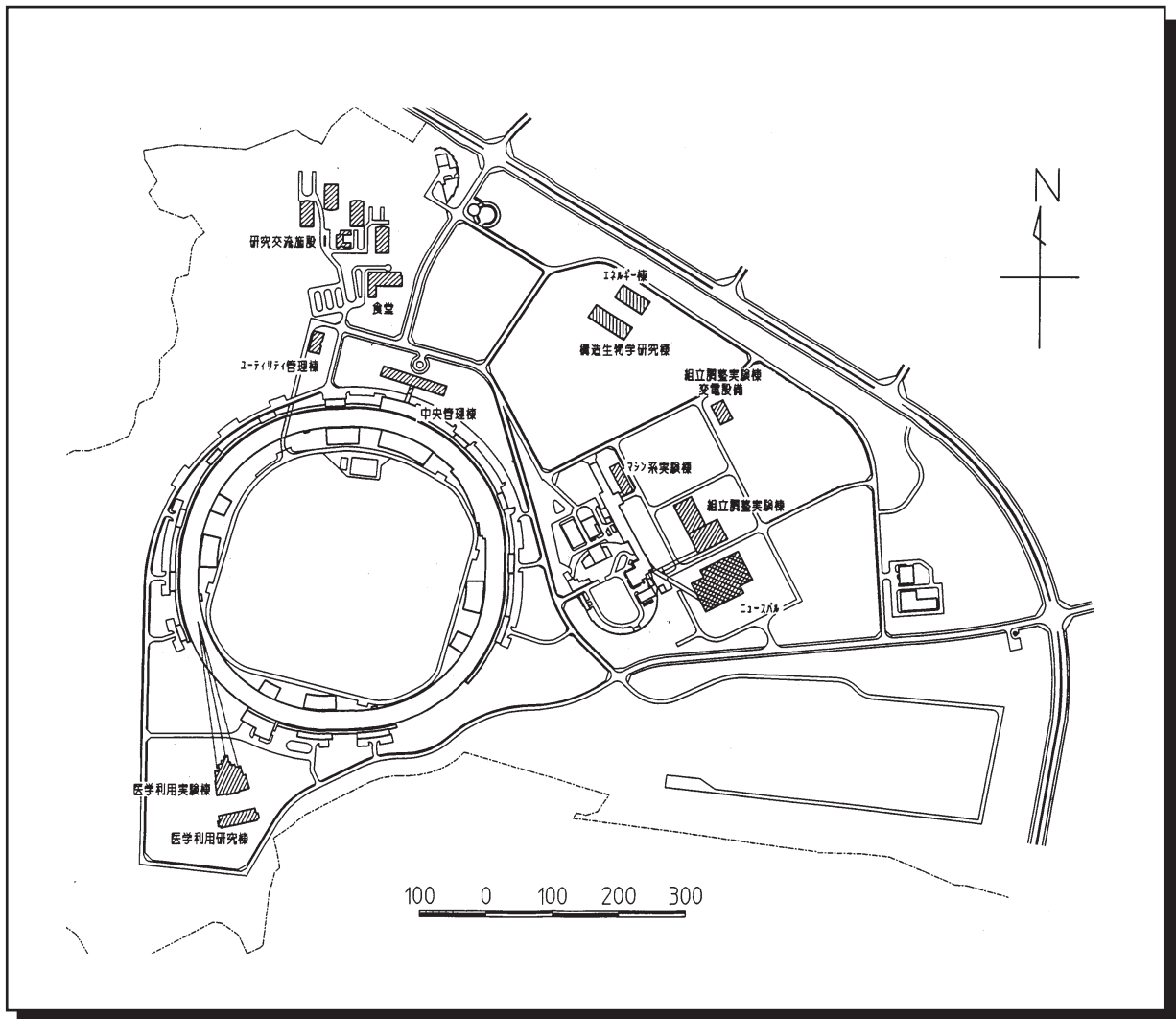


図1 SPring-8 サイトの施設配置計画

ループからの協力を得て、JASRI がニュースバルの設計調査を兵庫県から受託し実施している。

これらの施設を含む SPring-8 サイトの施設配置計画は、図1のとおりである。

2.1 研究交流施設

SPring-8 の共同利用ビームラインを利用する研究者が、仮眠、実験待機するための施設。全体で4棟、各棟60室、合計240室を整備する。これらのうち、1棟は平成8年度から運用を始め、共同利用ビームラインの建設に参加する研究者等のために利用される。

2.2 組立調整実験棟

共同チーム及び JASRI の加速器系、利用系グループの研究者や技術者が、加速器及びビームライン要素技術の研究開発に利用する実験施設。線型加速器の電子ビームを利用する SASE の研究開発も行い得るよう計画している。

2.3 医学利用実験施設

バイオメディカルイメージングの研究開発を実施する実験施設。中尺(200m以上)ビームライン3本を格納し、基礎実験及び臨床実験のいずれにも対応出来るよう計画している。建屋の建設を先行さ

せ、ビームラインの製作は平成9年以降に着手する予定である。

3. SPring-8 計画推進体制の整備

共同チームによる SPring-8 の建設段階で獲得される知識と技術を、JASRI による運営段階に円滑に移行させるため、平成7年9月から SPring-8 計画の推進体制を次頁のように変更した。これによって、共同チームと JASRI が一体となって SPring-8 計画を推進するための環境が整備されたことになる。平成7年12月末現在、共同チーム：200名、JASRI：70名、合計：270名が、SPring-8 計画の推進に直接関係している。

共同チームの母体である原研及び理研と JASRI とは、三者の間で SPring-8 の運営に関する調整を行うため、「SPring-8 運営調整会議」を設置している。また、JASRI は SPring-8 における放射光利用研究を促

進するため、「諮問委員会」及びその下部委員会として「利用課題選定委員会」及び「専用施設計画検討委員会」を設置している。SPring-8 計画の推進体制における各種委員会の位置付けについては、図2に示した。



齋藤 茂和 SAITOU Shigekazu

昭和25年12月24日生

日本原子力研究所・理化学研究所
大型放射光施設計画推進共同チーム
企画グループ

〒678-12 兵庫県赤穂郡上郡町金出地
1503-1

TEL 07915-8-0308 FAX 07915-8-0311

昭和50年静岡大学大学院工学研究科修士

課程修了、理化学研究所ライフサイエンス推進部、国際フロントティア研究推進部、海洋科学技術センター深海環境プログラム推進室等を経て、平成3年から理化学研究所大型放射光施設計画推進部、職業病はすいしんすること。

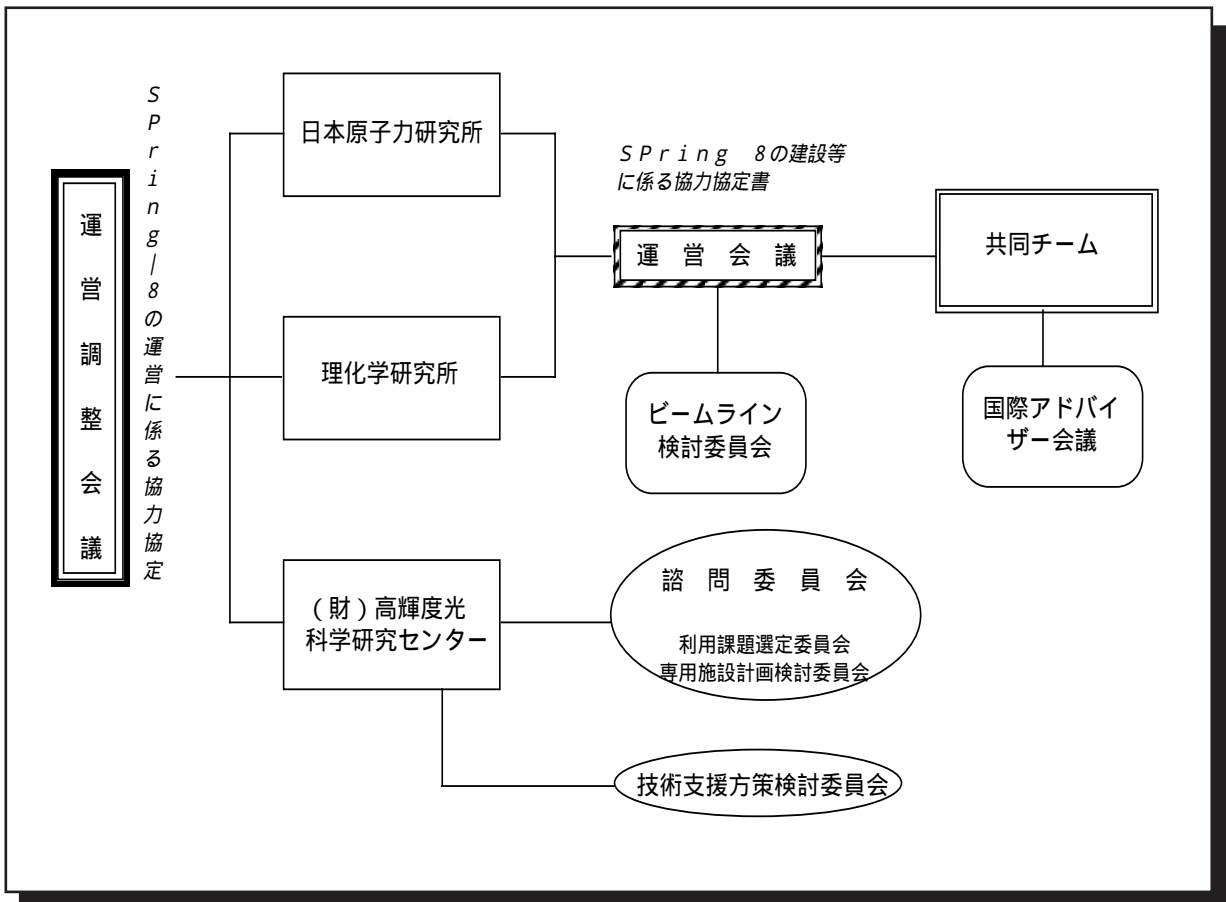


図2 SPring-8 推進体制における委員会など